平成22年度大阪市立大学都市問題研究採択プロジェクト
「『住みごたえのある町』をつくる－大阪・ハンブルクにおける市民文化に基づくエリアマネジメント－」
国際シンポジウム

イベント・下町・エリアマネジメント
～大阪・ハンブルクの取組みから～

平成22年8月22日（日） 10:30～16:00

●主 催: 大阪市立大学大学院文学研究科
●共 催: 大阪市立住まい情報センター

本日のプログラム

＜第1部＞ ドイツにおける市民文化に基づく市区更新

10.30-10.35　趣旨説明　大場 茂明 (研究プロジェクト代表・大阪市立大学教授)

10.35-11.15　地区開発と住みごたえ－保全と増価とを結ぶ都市更新
ディルク・シューベルト (ハーフェンシティ大学教授)

11.15-11.55　ドイツにおける再開発事業の担い手の現状と課題－文化アイデンティティは単なる感情の産物か、それとも具体的な欲求か？　ハンス・ヨアヒム・レスナー (steg代表)

11.55-12.00　第1部のまとめ

＜第2部＞ 住みごたえのある町を目指す大阪・ハンブルクの取組み

13.30-13.40　地域資源と担い手－住みごたえのある町をつくるための前提条件　大場 茂明 (大阪市立大学教授)

13.40-14.00　観光ボランティアの案内で九条の町を楽しく歩く
谷口靖弘 (大阪芸術大学短期大学部教授、大阪・九条下町ツアー主宰)

14.00-14.40　ザンクト・パウリは住みごたえのある町か？　クルト・ラインケン (steg不動産開発部門責任者)

[休　憩]

14.50-16.00　パネルディスカッション　司会進行・高梨 友宏 (大阪市立大学准教授)

本シンポジウムの背景（1）

◎地区活性化施策による都市の**創造的縮小(smart decline)**の必要性

◎ハンブルクと大阪を比較する意義：

＊両市の共通性

《国内有数の商業・港湾都市》
《市民文化をリード》
《近年における人口回復傾向》
《ジェントリフィケーションの兆候（？）》

商店街の衰退や住宅の老朽化にともなう中心市街地の空洞化対策

大規模再開発に頼らず、既成市街地(特に下町)の魅力を再発見する必要性

本シンポジウムの背景（2）

＊ハンブルクにみる先進性

《ドイツにおける衰退地区再生プログラムの先駆け》
1990年代以来の豊富な事業経験
→<u>比較研究の対象として最適</u>

・市内インナーシティ（ザンクトパウリ地区ほか）での事業
新たな都市居住の魅力創出に成果
地区の再生→**“Szenenviertel”**として若者に人気

・事業に直接携わったメンバーから先進事例を学ぶ意義
→<u>日独の事例をパラレルに比較するわけではない</u>

日独共同研究の目的

◎既成市街地内の商工住混合地区(下町)を舞台に、

◎有形・無形の地域資源(イベント)を活用した

◎様々なアクター(行政、地元企業・団体、住民. .)による主体的な文化活動(エリアマネジメント活動)をもとに

↓

市民文化を基礎に置いた「住みごたえのある」まちづくりモデルの提案

・新たな都市居住の魅力創出
・地区の再生・発展に寄与

日独共同研究の目的

◎既成市街地内の商工住混合地区(下町)を舞台に、

◎有形・無形の地域資源(イベント)を活用した

◎様々なアクター(行政、地元企業・団体、住民. .)による主体的な文化活動
(エリアマネジメント活動)をもとに

↓

市民文化を基礎に置いた「住みごたえのある」まちづくりモデルの提案

・新たな都市居住の魅力創出
・地区の再生・発展に寄与

大都市圏におけるエリア別コミュニティ事業の特徴

- インナーシティ
  都市観光，地域間交流
- 郊外衛星都市
  地域アイデンティティ，
  地域ブランド（ショップ）
- 超郊外新興住宅地
  環境共生，里山コモンズ

→地域資源をどう活かすか？

九条の地域資源

	種　別	主要な事例
有形のもの	河川	安治川、木津川
	道	九条新道、井路(いじ；路地)
	近代以前の公共的建物・施設等	茨住吉神社 天満宮行宮(千代崎天満宮) 町内の地蔵尊 太閤さんの残念石 安治川開削紀功碑ほか
	近代以降の公共・産業用建物・施設等	安治川河底トンネル SL蒸気機関車館 ミューラシア（鉄工所の転用） シネ・ヌーヴォ（映画館） 「大阪市電発祥の地」石碑ほか
	町並み・民家	商店街・町工場・長屋・町家
	下町グルメ	粟おこし、お好み焼き、豚まんほか
無形のもの	社寺祭礼	天満宮行宮夏祭り
		茨住吉大社夏祭り
	その他の催し	浪速名物・九条まつり

インナーシティにおける都市再生／地区活性化の動向

◎商業主導・ハード優先型から脱商業・施策統合型へ

インナーシティ衰退地区（ザンクトパウリ地区ほか）での事業展開
→新たな都市居住の魅力創出に成果

“Szenenviertel”（coolな地域）として若者・学生層に人気

＊その劇的な変容過程を主導したのは何か／誰か？

エリアマネジメントにおける組織のあり方

①<u>アンブレラ型</u>（コーディネート組織）

全体を一つのシステムで括る

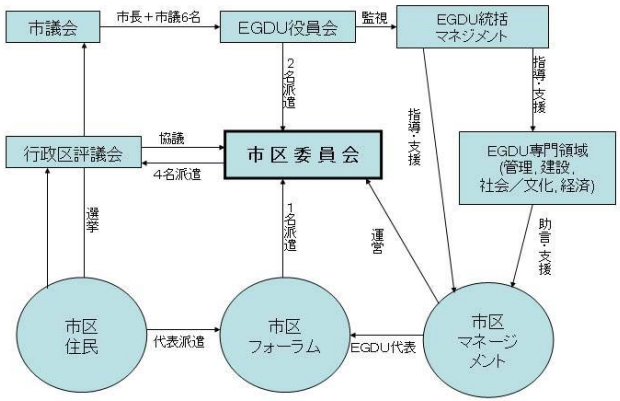
例：タウンマネージャーとしても機能するsteg

②<u>プラットホーム型</u>（共通のベース提供）

不連続なものの関係性を構築

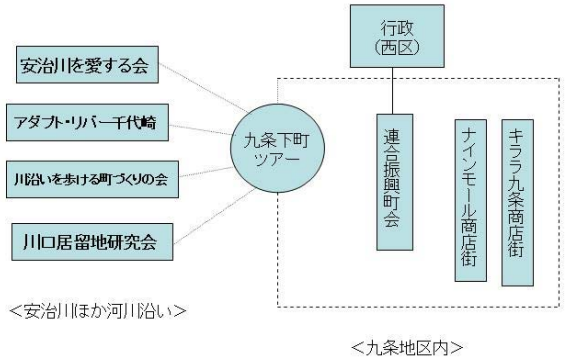
③<u>ネットワーク型</u>（主体を緩やかにつなぐ）

→別々／個々の萌芽をどうする？



マルクスローにおける事業組織図
出典：Gorres(2004)

九条を取りまく市民団体・組織図



日独事例地区のプロフィール

◎商工住混合の既成市街地
（都市の玄関口＝港湾に近接したインナーシティ)

＊<u>九条地区</u>（大阪市西区）

・市内の典型的な商工住混合地区
（臨海工業地帯のバックヤードとして発展）

・「大阪・九条下町ツアー」が活動
（1997年～）

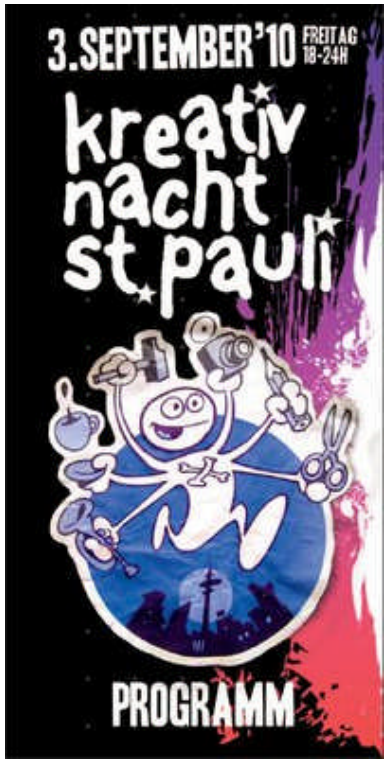
・住民が世代を越えて住み続ける

＊<u>ザンクト・パウリ地区</u>（ハンブルク市）

・歓楽街／衰退市街地から活気ある盛り場／人気の住宅地(Szenenviertel)へ変貌

・地区再開発プログラムが始動
（1990年代～）

・住民層の交替・・学生・若者の流入

パネルディスカッションへの展開

◎大阪・ハンブルクにおける取組み：成果と課題
→映像・音楽・演劇など、文化（ソフトな施策）に
重点を置いた地区の活性化モデルの可能性